

第10回 南部地区街づくり協議会 議事録

開催日時	平成28年7月1日(金) 14:00~15:30
開催場所	4階 特別会議室
出席委員	委員11名
欠席委員	委員5名
事務局	城内理事、加藤課長、上田主幹、岩田課長補佐、吉本係長、増田主査、島田主査、藤田主任主事 (プロジェクトチーム) (農林課) 山村課長、色雲係長、(産業振興課) 米田係長、下元主事
決定事項	
議事内容	
<p>1. 開 会 -14:00-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>今回は節目の第10回であり、前回の協議会より少し時間が空いてしまったが、その間も地域で大変熱心に取り組んでいただいているプロジェクトが多数ある。本日はそういった動きを共有させていただくと共に、他の地域との連携や本年度の取り組みについて確認をさせていただきたい。</p> <p>また、本日は奈良県ならの観光力向上課長にもお越しいただいているが、一昨年 of 包括連携協定に引き続き、先日、南部地区に特化した県との基本協定を締結することができた。県のご指導・ご支援をいただきながら、本地区のプロジェクトに繋げていきたいと考えている。本日も熱心なご審議をお願いし、冒頭の挨拶に代えさせて頂く。</p> <p>3. 委嘱状の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この度、任期満了に伴い委員お二方の交代があった。新たな委員の皆さまへ委嘱状の交付をさせていただく。(会長より新規委員2名に対して委嘱状を手渡し。) <p>4. 事務局連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の議事録の確認 <p>5. 議 事</p> <p>以下、議事進行は会長が進める。</p> <p>(ツールドニッポン in Nara Tenri について)</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行関係やアウトドア関係で広く読まれているペーパースカイという雑誌の企画で、ウォーキングとサイクリングを組み合わせたイベントを5月末に実施したが、その様子をご紹介させていただく。1日目は大神神社をスタートし、ボランティアガイドの案内で山の辺の道を北上した。また、2日目はサイクリングイベントとして、大和八木駅を出発し、田原本の唐古・鍵遺跡を通過して奈良までのコースを走られた。本市南檜垣町では営農組合様を中心に地域産のアヤミドリ(青 	

大豆)の豆乳や冷やしトマト、じゃがバター等の心のこもったもてなしをしていただき、参加者はお腹も心も満足されていた。朝和地区の大和神社では、宮司様より歴史などについてお話も頂き、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けられていた。当日は本市ブランディングプロデューサーのgraf 服部氏とペーパースカイ編集長のルーカス氏も参加され、参加者はもちろん、より多くの方に地域の魅力を知っていただく良い機会となった。

委員

- ・大阪や遠いところでは東京・埼玉からも参加者が来られていたということで大変驚いた。田舎の風景や風情が求められているということを痛感したイベントになった。

会長

- ・これまでも桜井市や田原本町と連携したイベントはあったが、雑誌媒体による企画は初めて。自転車を使えば本市を中心に橿原また明日香と奈良を繋ぐイベントが十分企画できるということも分かった。また、参加者は集合場所までの旅費に加えて、18,000円もの参加費を負担しており、それでも参加したいと思う魅力がこの地域にはあるということが確認できた。
- ・そんなにお金をかけず、自転車ラック等の設備を設けることだけでもルートとして認識していただけるということも分かった。
- ・以前より、委員から自転車や歩きなどの手段別の周遊観光整備についてご意見をいただいていたが、このようなイベントを一回限りでなく、ずっと繋がっていく動きにしていくための努力を今後進めていかなければならないと考えている。
- ・奈良県による農村周遊自転車ルート計画はまさに今回のルート上であるが、整備が進めば田原本の唐古・鍵遺跡や巻向遺跡とのつながりを強めた打ち出しも可能となる。

(トレイルセンターの改修イメージとスケジュールについて)

- ・国の交付金を活用してトレイルセンターを改修するにあたり、その管理運営者について指定管理者の公募をしている最中であるが、概要について事務局より説明させていただく。

事務局

- ・当該施設は、東海自然歩道の利用者の休憩、情報提供機能を有する施設として平成12年度に供用を開始している。機械設備の故障や席数不足といった課題や地域産品を購入したい・味わいたいといった利用者のニーズに応えるべく、内装の改修計画を進めている。
- ・奈良と明日香を結ぶ周遊観光の拠点、天理駅と南部地区をつなぐ拠点として大きな役割を担う施設として位置付ける。利用者に十分な時間と場所を提供し、満足した休憩をとっていただくという本来の設置目的の強化と、食を含めた地域の地場産品の発信や天理駅と連携した観光促進の視点を取り入れた機能強化を図る。
- ・施設は全体で約300数十㎡あるが、約55㎡の事業者提案スペースを設けている。ここでは、地域産品の販売や飲食の提供をする事業を提案していただくことになっている。また、地域の観光情報や魅力を発信するという観点から観光コンシェルジュの機能も付加する。
- ・天理市をはじめとする奈良県産の特産品の販売ブースの設置や、テーブル・スツールを現在の30

席から 80 席程度まで増やし休憩機能の拡大も予定している。

- ・その他、景観向上のための新規の窓の設置やオープンロッカー・シャワールームの増設、歴史資料の展示・什器等の刷新を予定。
- ・フローリングスペースを設置し、西側に向けてウッドデッキ整備する。暖炉等も設置し少し山小屋風なイメージを演出する。
- ・今回導入する指定管理制度は公の施設に民間の活力を取り入れて、経費の節減と住民サービスの向上を図るという目的があるが、今回は特に民間の活力を最大限に活用することに重きを置いている。地域の交流の場、市内外から人が訪れるという山の辺の道の利点を活かし、奈良と桜井、明日香、また、4月にオープンする天理駅前広場を繋ぐ役割を果たす拠点として整備する。加えて、奈良県及び地域産品の販売や飲食による発信、歴史・文化、豊かな自然を活かしたイベントの開催やノルデックウォーク、サイクリングといった周遊観光の促進についても重点を置いた展開を行いたい。訪れることの豊かさや価値を可視化することで、他世代の交流や人の流れを生み、人と経済の循環に繋がるものと考えている。

会 長

- ・どのような事業者に指定するかについては、選定委員会の皆さまに判断を委ているので、予断を与えるような発言は差し控えるが、先ほど担当課よりご説明させていただいた施設の役割を發揮できるように進めたい。
- ・先ほどご紹介したツールドニッポンのイベントは参加者の満足度が大変高いものであったが、我々のこれまでの反省点として、イベント当日は来られた方に対する案内やもてなしが行き届いているが、「良かった」と思って再度別の日に訪れていただいた際に同じような対応が出来ていないという実態がある。このような問題点を解消するためにも、各地にしっかりと拠点を設けることが必要である。
- ・以前に、地元商工連盟でトレイルセンターを活用したいとの申し出を頂いた際には、規制等で物販ができないとお断りしていたということがあったようだが、そのせいでこれまで当該施設を十分に活用できていなかった点については、深くお詫び申し上げたい。
- ・次の会であれば事業者も決まっていると思うので、もう少し詳細な内容をご説明させていただく。

委 員

- ・デッキ部分については土足で上がれるとのことだが、雨の日などは足元が汚れている場合もある。入口付近で泥などを落とせるマットなども必要ではないか。

事務局

- ・指定管理者とも相談のうえ、そのような準備ができるようにしたい。

委 員

- ・トレイルセンターへの車で来られる方の駐車場はどのような状況か。昨日、トレイルセンター周辺を歩いてきたが、少し狭いような印象もある。

会 長

- ・現状では建物前の数台と南側の一段下の数台を駐車場として設定している。周辺に有効な土地も少ないので、黒塚古墳資料館の駐車場を活かす方向で、柳本マルシェ様とも連携を図れないか検討していきたい。それに向けたルート整備も進めているところ。

(柳本周遊ルート整備工事について)

事務局

- ・前回の協議会においてもご説明させていただいたが、黒塚古墳駐車場から169号の下をくぐって山の辺の道方面へ至るルートの舗装整備を進めている。同駐車場については柳本マルシェ様にもご活用いただいているが、来場者が169号を横断されると危険であるため、安全に国道東側の会場へお越しいただくルートとしても活用が期待される。今週に着工・完成を予定していたが、雨が続いたため週明けから再度着工する予定で進めている。工事自体は3、4日程度で終わることなので、来週以降には通行していただける見込み。

会 長

- ・毎年、秋に実施しているてくてくてんりウォーキングフェスタについて、今年は天理駅前が工事中のため、JRの各駅をスタート、市役所をゴールとする予定。柳本駅を出発された方が山の辺の道に至るために、どのようなルートや案内であれば良いか検証する機会でもあると捉えている。
- ・トレイルセンターは柳本校区にあるが、大和神社といった朝和方面への周遊観光にとっても大変重要な拠点であると考えている。

(柳本マルシェの取り組みについて)

事務局

- ・柳本マルシェ様におかれては既に十数回の開催をされており、来場者も増えて賑わっているが、これを受けて6月より第1、第3日曜日の月2回開催されることになった。出品者からも機会の増加要望があったとのこと。直近の7月3日は奈良テレビの取材も入っていると聞いている。

委 員

- ・前回、前々回は珍しく雨が降り、足元も悪かったため少しお客さんが少なかったが、提供する側としては、皆さん非常に前向きに取り組んで頂いている。中には市内のスーパーへ価格の調査に行かれている方もおられるよう。プロではないが、安心して選んでいただける消費者との距離の近さも強みとして取り組んでいきたい。

会 長

- ・来られる方のみならず、運営されている皆さまも元気になっていただいているとのことで、このような取り組みが市内で広がっていけば農の活性化にも繋がっていくと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。

(天理駅前広場整備との連携について)

事務局

- ・平成29年4月のグランドオープンに向けて、天理駅前広場の工事を進めている。他世代の交流や情報発信、賑わいづくりの場として整備を実施する。新たに設ける野外ステージでは天理の魅

力の一つである音楽や文化の発信機能を持たせるほか、アンテナショップでは地元の産品のご紹介や販売を行う予定。

- ・「食と旅の拠点」施設では、地元の産品を味わっていただくという観点でのカフェ機能とスポーツタイプの自転車ショップを併設する予定。
- ・カフェでは、南部地区を含む市内の農産品等を使用し、実際にその魅力を五感で感じていただき、地域の良さに気づいていただくということを重視する。また、その気づきの具体化として、サイクルショップで自転車を借り、産品の産地へのツアーに参加していただくというような企画を恒常的に実施することを想定している。

会 長

- ・カフェ部分については、奈良のヒルトップテラス等を経営されている事業者に入っていただくことが決まっており、サイクル部分についてはアメリカの大手のトレック社の誘致を予定している。
- ・飲食店、サイクルショップを設けることが目的ではなく、そこから如何に天理の様々な魅力を発信できるかが重要だと考えている。
- ・先ほどのトレイルセンター、移転する新たな櫛本公民館、天理駅前と、市内の拠点がだんだんと広まってきた。それらを繋ぐサイクルルートについても、県との連携のうえで進めていきたい。

(モスの産直フェスタについて)

事務局

- ・モスバーガーを展開するモスフードサービスは素材に大変こだわりを持っており、ハンバーガーに使用する具材を産地から直接買い付けて使用する「産直フェスタ」として、3年前から本市合場・九条産のトマトを使用した期間限定のハンバーガーの販売を行っている。昨年までは「奈良県産トマト使用」という打ち出しであったが、今年はJAならけん様と共に打診し「天理産トマト使用」として販売していただいた。
- ・天理産という打ち出しにより、市民はもとより県全体での注目をいただいたほか、従業員のかたによる収穫体験や生産者との交流も含めて、大変有効な取り組みであった。
- ・今後も本市の農産物を少しでもPRし、広くその魅力を知っていただけるように取り組みを広げていきたい。

会 長

- ・やはり奈良県産と表示するのと天理市産と表示するのでは、市民の方々の思い入れもかなり違うということを実感した。中には、お店の前を通り過ぎた方がのぼりに気付き引き返して来られるといったこともあったとのこと。
- ・国内のトマトの年間消費量が一番多い(年間24.9個)のが奈良県だそうで、それを支えるのがまさに天理の合場・九条といっても過言ではない。今回は経営者の方々が産地に来られるという流れと、生産者の方々が自身の育てたものがどのように使われているのかを知る大変良いきっかけになった。このような動きを常にやっていくのが、天理駅前の食と旅の拠点の役割であると考えている。

- ・昨年度よりふるさと納税の返礼品として市内産の産品を送付しているが、柿などは大変人気で今から予約が殺到しているような状況。農については担い手不足などネガティブな要素も良く言われるところだが、もう一度、天理産、特に南部は農産品の宝庫であるので、その価値をしっかりと前に出していければと考えている。
- ・天理駅前整備についても、その周辺だけでなく、まさに南部地区のプロジェクトであるという認識を持っていただければと思う。

(柿の葉の活用プロジェクトについて)

事務局

- ・柿の葉の活用プロジェクトについては、深刻化している耕作放棄園を解消し、山の辺の道周辺の景観を維持すると共に、今後、果樹栽培を終えられる柿園について生産負荷の軽い「葉」の栽培を提案することで、新たな放棄園の発生を抑制できるというメリットがある。
- ・県内でも五條市の事業者の柿の葉茶のペットボトルの事例や、柿の葉寿司用の葉の卸しの事例がある。本市の萱生町や柳本町においても、昨年より二階堂町の柿の葉寿司製造事業者と連携のもと、柿の葉寿司に使う葉の供給を開始している。
- ・今後は生産者を中心とした組織化や、放棄園と生産希望者のマッチングの仕組みなども検討しなければならないと考えている。また、収穫にあたり不可避である規格外の葉について、加工品としての活用の検討を併せて進めていきたい。
- ・前回の協議会においては、委員様より「まずは果実の栽培が重要ではないか」とのご指摘も頂いたが、一方で放棄地が広がってきているのも事実である。果実の栽培を続けていただくことが一番であるという認識はもちろんだが、生産者がリタイアされた後、たちまち放棄地になるのではなく、葉の栽培をすることで景観や農地の保全に繋げていければと考えている。
- ・うまくゾーンを決めれば、鳥獣害に対しても効果が期待される。併せて検証を行いたい。

委員

- ・商売的な発想で考えれば一枚5.5円で100枚取っても550円。規格外もあるのでそれで成り立たせていくのは難しいと思う。とはいえ、耕作放棄地の抑制や景観保全のためには大変良い動きだと思うので、モデルとして是非進めていただければ。

会長

- ・観光や体験などともうまく組み合わせながら、各事業者とも連携のうえで進めていければと思う。

(国際芸術家村構想について)

事務局

- ・国際芸術家村については奈良県で構想を掲げられ、平成33年の完成に向けて計画を進められている。本市杣之内町の幾坂池周辺が候補地に選定された。敷地面積は25,000㎡。県との連携による本市の展開として、古墳関連文化の拠点や文化資源の拠点、地域のにぎわい拠点、駅前再開発事業との連動、国内外の芸術家を招へいするアーティストインレジデンス等の取り組みを検討している。こちらについては先般、東京で県の検討委員会が開催され、市長による説明もさせて

いただいたところ。

委員

- ・県では現在、施設に係る基本計画策定のための議論を進めているところ。5年先を目途に整備を進める中で、県としても市との連携を強化することでより魅力のある施設にできると考えている。施設のベースとなるのは文化財の保存・修復と歴史・文化資源の活用であるが、地域の方々が集まる拠点として如何に活用していけるかが重要である。市として施策展開を頂くことは大変ありがたい。皆さまにも様々な形でご協力をお願いすることになるがよろしくお願ひしたい。

会長

- ・県ではゲストハウスといった宿泊施設や農産物の直売所、レストランなど道の駅にも類する機能の付加も検討されているとのこと。ただ単に道の駅があるというよりも、歴史・文化との組み合わせを強みとして展開できればと思う。本市にとっては天理駅周辺と南部地区を結ぶ拠点としても期待している。できる限り県また地域と連携して進めていきたいと考えている。

委員

- ・市の文化財課が芸術家村に移転する計画があると聞いたが。

会長

- ・現在、案として本市文化財課の移転を提案しているところ。せっかく素晴らしい文化財があっても、これまで修復の様子や展示を見ていただくことができなかつた。発掘や修復といった作業を来館された方に見える化するすることで、よりその魅力を感じていただけるのではと考えている。

(黒塚古墳分科会について)

事務局

- ・公民館や小学校等が所在し、三角縁神獣鏡の出土により住民の共通の誇りとなっている黒塚古墳周辺エリアにおいて、その活性化に的を絞った協議を地元で実施させていただきたいと考えている。
- ・最終的な目的としては、エリアの将来イメージと各資源の役割を明確にすることと、地域住民や来訪者のニーズを踏まえた活性化プランを策定すること。そのプランに基づき、奈良県と個別協定についてもご相談しながら、実際の整備や事業を実施していきたいと考えている。
- ・本日の協議会ではからせていただいた後に、全3回程程度の開催を予定したい。地域で実際に活動されている団体や区長等、資料に案でお示しした団体へご出席をお願いし、ご意見を頂ける機会にしたい。
- ・先ほど黒塚古墳展示館駐車場からのルート整備についてご説明したが、以前よりご意見いただいていたエリアに必要な案内表示について、実際に現地を見ながら検討を進めたいと考えている。
- ・次回以降の協議会において、分科会での協議内容や意見をフィードバックさせていただく。

委員

- ・柳本駅前についても何か検討ができないか。

事務局

- ・黒塚古墳周辺エリアへは、多くの方が柳本駅から来られることが想定されるため、その動線や仕掛けについても同分科会で検討したいと考えている。例えば、電車の時間待ちを柳本公園で案内できれば、人の滞留を生み出すことにつながるのではないかと思う。エリア内には、黒塚古墳展示館に加えて障がい者ふれあいセンターも活用できる可能性があるため、それぞれの特徴を活かした組み合わせができればと思う。
- ・併せて、柳本地区と朝和地区で作成をいただいたまちづくりマップについて、より広く住民、また、来訪者に知っていただくため、掲示板として地域に設置するための補助制度を本年度準備させて頂いている。

(天理市地域総活躍まちづくり提案事業補助金について)

会 長

- ・本協議会で議論や提案をさせていただき動き以外にも、地域主体で様々な活性化の取り組みを進めていただいております、市としてもそれを後押しさせていただき仕組みを作っていきたいと考えている。

事務局

- ・各街づくり協議会の地域で活性化の取り組みを進めて頂いている団体が、新規事業または継続事業の拡大をされる場合に、その経費の一部を支援させていただき補助制度を準備した。団体から事業の企画提案をいただき、予算の範囲内で補助をさせていただき。委員の皆さまにおかれましても、是非、地域の団体等への周知やご推薦にご協力頂きたい。

会 長

- ・上限は1件25万円で、南部地区においては今年度4件分の予算を確保している。委員の皆さま、特に両校区区長会長様におかれては校区内でご活用について検討していただければありがたい。

(ブランディング事業に係るモノづくり支援及び異業種交流会について)

事務局

- ・地域ならではの魅力を可視化して、街を特徴づける商品の開発や高付加価値の実現を目指し、天理市ブランディングプロデューサーの graf 服部氏を講師に迎え、昨年度、市内事業者や農業関係者の方々に多数ご参加いただき、モノづくりセミナーを計3回開催した。
- ・今年は、実際に意欲のある事業者を選定し、ブランディング商品の開発を協働で進めていきたいと考えている。
- ・異業種交流会については、市内事業者間のマッチングや連携を通して、販路の拡大や新たな事業の展開を見出して頂くきっかけの会である。こちらも是非多くの方にご参加いただきたい。

会 長

- ・市内でも、既にマッチングにより新たな展開を目指して動き出している事例もあるので、市としても精力的に機会の提供を行っていきたい。
- ・昨年の県事業のモノづくり支援においては、3件中2件が天理の事業者という実績がある。本市の事業においても3件を想定しているが、パッケージングや中身の良さの引き出し、発信につい

て graf 服部氏による支援で磨き上げていただきたいと考えている。そうして出来上がった商品については、是非、新たな天理駅前やトレイルセンター等、奈良のまほろば館、そして東京へと販路を広げていければと思う。

- ・委員の皆さま、とりわけ商工会会長様におかれては、是非、事業者の募集及び推薦にご協力をお願いしたい。

6. 次回の日程と主な協議内容

次回第 11 回協議会は 10 月頃を予定。後日日程調整を行う。

7. 閉 会 -15:30-